シマフクロウの生態

髭（幼鳥への給餌）

シマフクロウ保護・研究家　山本純郎

成鳥にも幼鳥にも長い髭（糸状羽）があります。幼鳥時は特に長いです。フクロウ類は遠視なので、髭で餌のありかを探るためにあると言われています。事実フクロウ類の大半は遠視です。そのせいか給餌の時は双方とも目（瞬膜含む）を閉じています。仮に目を開けていてもぼやけて餌か何か分からないのでしょうか。でも髭で探って餌を探すことはないようです。餌は嘴の先端にあるのに、間違えた幼鳥に嘴を噛まれてしまうこともあります。

ある意味で髭は触覚の役目を果たしていますが、この長い髭は主に目を保護するための物のようです。目を駆使してハンティングを行うシマフクロウは目が非常に大切です。同じように幼鳥に給餌するワシ類は目を開けていて、このような髭はないです。それはフクロウ類に比べ長い嘴を持っているせいだと思います。でもフクロウ類でも目を開けて給餌する種もいます。

写真のように蝋膜（柔らかい）や嘴を噛んでも強く噛むことはないので傷つくことはありません。

1

2

3

4

●生息つがい数の違い

その年に確認したつがい数とその年には営巣等の確認が出来なくても確実に生息しているつがいを含めた数、その違いです。同時に全つがいを確認することは不可能です。総数はあくまで推定数なのです。生息数はたえず揺らいでおり、今この時にも変化しているのです。

1　幼鳥はかなり腹を減らしていたのか、慌てて親鳥の蝋膜に噛みつく
2　次に少し下側の嘴を噛む（髭があたる）
3　ようやく目的の餌を咥える
4　やっと餌を自分のものにする

事務局便り

●機関誌「北海道シマフクロウ通信」は本号で第 40 号を迎えました。今後も引続きシマフクロウや保護活動に関する情報を発信していきますので、シマフクロウについて関心のあること、知りたいこと等ありましたらメールなどにてお寄せください。ホームページのお問合せ欄もご利用いただけます。

●賛助会員ご入会・ご寄付を募集しています
当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆様の賛助会員ご入会とご寄付を募集しています。
当会のホームページからもご入会手続・ご寄付申込手続ができますのでよろしくお願いいたします。

【認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会　事務局】（担当：米谷・佐々木）
〒060-8640 札幌市中央区大通西 3 丁目 11 番地 北洋ビル 6 階　㈱北海道二十一世紀総合研究所 内　TEL 011-231-8681　FAX 011-231-8683
URL：https://hokkaido-shimafukurou.org/　E-mail：info@hokkaido-shimafukurou.org

令和 7 年 5 月 25 日発行／発行：認定 NPO 法人「北海道シマフクロウの会」／印刷：株式会社ほくでんアソシエ／誌面デザイン・DTP：中島祥子

北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会　機関誌

第40号

グルーミングをする幼鳥（左 若鳥　右 雌）

写真：山本純郎

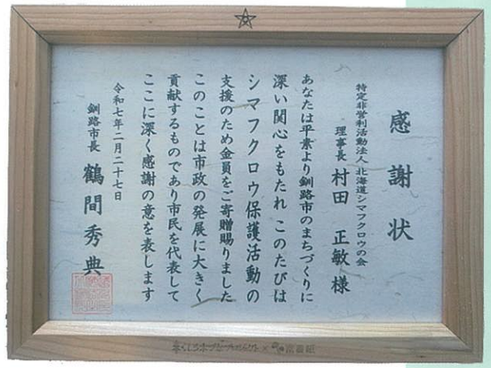
令和６年度（第６回）シマフクロウ保護活動支援金を贈呈しました

認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 事務局

令和７年１月 29 日に開催された令和６年度第２回理事会において、下記の通り支援金額、贈呈先が決定されましたので、令和７年２月 26 日に支援金の振込を行いました。この原資は令和６年９月 10 日から 10 月 30 日の期間、多くの皆様からご支援を賜りました第６回クラウドファンディングによる寄付金を当てております。改めましてご支援に対し心より感謝申し上げます。

● 支援金贈呈先　支援金総額 90 万円

山本　純郎氏（根室市）：継続支援
早矢仕　有子氏（札幌市）：継続支援
竹中　健氏（札幌市）：継続支援
齊藤　慶輔氏（釧路市）：継続支援
田村　康教氏（釧路町）：継続支援
ニムオロ自然研究会　髙田　令子氏（根室市）：継続支援
釧路市動物園（釧路市）：継続支援
公益財団法人日本野鳥の会（ウトナイ湖サンクチュアリ）：継続支援
以上　個人５名　団体・法人３先　計８先



シマフクロウ保護活動支援金の贈呈に対し
釧路市から感謝状をいただきました

それぞれの支援金額は、諸事情を勘案のうえ、５万円～ 20 万円としています。保護活動支援金贈呈先の皆様の日頃の活動などにつきましては、今後北海道シマフクロウ通信紙面等にてお知らせする予定です。

事務局より

北海道シマフクロウ通信 第 40 号発行に当って

シマフクロウ通信
創刊号と 39 号

平素は「特定非営利活動法人北海道シマフクロウの会」の活動に関し、格別のご支援をいただき厚く御礼申し上げます。さて、当会の活動は平成 25 年９月の立ち上げ以来 11 年半を迎えますが、その間、シマフクロウの現状や生息地等での保護活動への取組み、当会の活動状況などを機関誌「北海道シマフクロウ通信」を通じて発信してきました。その機関誌も今回で 40 号（２号合併での発行が１回あり、発行回数は 39 回）となりました。会の発足に伴い平成 25 年 12 月に創刊号を発行、当初より年４回の発行を行ない、平成 31 年２月のＮＰＯ法人化以降は年３回に切替え現在に至っています。

創刊号に掲載されたシマフクロウ保護・研究家の山本純郎氏の講演記録によれば、当時の生息数は、それまでの 25 年間にわたる保護活動により２倍に増えたもののまだ約 140 羽で、まさに絶滅の危機に瀕していました。その後、11 年余りの間、関係者による保護活動は継続され、昨年の環境省による調査結果によれば 100 つがいを確認、これにつがい未形成のシマフクロウを併せると、200 羽を超える数に増えていると見られます。それでもシマフクロウが絶滅の危機を完全に乗り越えたとは言えず、保護活動、生息環境回復などへの取組みは今後も手を休めることはできません。

当会では、これからも機関紙を通じてシマフクロウを巡る情勢、保護活動の動向等を発信して参ります。過去の発行分も当会ホームページの資料室でご覧いただけますので、ぜひ関心をお持ちいただき、シマフクロウに代表される北海道の生物多様性保全のためにお力添えをいただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

事務局レポート

北海道コンサドーレ札幌 連携イベント 第５回

令和７年３月９日
ジェフ千葉戦ブース出展

ご支援ありがとうございました

北海道コンサドーレ札幌との連携イベント第５弾として、去る３月９日（日）開催の 2025 年ホーム開幕ジェフ千葉戦にて、大和ハウスプレミストドーム内に特設ブースを設置いただき、シマフクロウ保護活動の情報発信とともに活動支援のための募金をお願いしました。今回も約 600 名と大勢のファン・サポーターにお立ち寄りいただき、131,906 円の募金（寄付）が集まりました。

今回の活動にも、これまで同様北海学園大学早矢仕教授、日本野鳥の会、環境省北海道地方環境事務所の皆様にご協力いただくとともに、コンサドーレのマスコット「ドーレくん」もブースでの呼びかけに参加してくださり、シマフクロウの着ぐるみ「ブラッキー」との２ショットは来場された方々の注目を集めていました。

また、前回から登場した新たなはく製のシマフクロウは、お立ち寄りいただいた皆様の関心の的になり、当会からのシマフクロウに関する説明にも熱心に耳を傾けていただきました。

皆様の温かいご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともシマフクロウ保護へのご理解、お力添えを心よりお願い申し上げます。